

みやぎ街道交流会令和2年度定期総会を7月4日（土）16時から「青葉区中央市民センター」で開催しました。

開会のあいさつ / 会長 白鳥 良一

新型コロナウイルス感染拡大のため、ここのところ各種の事業や行事が軒並み中止となり、恒例の会議などもそのほとんどが書面決議となりまして、いささか寂しい思いをしている昨今ですが、皆様はいかがでしたでしょうか。



このような情勢の中、私達みやぎ街道交流会においては、事務局が広い会場の確保や「3密」対策に努め、実際に会員の皆様に集まっていただく形で令和2年度定期総会を開催するところまで何とか漕ぎ着けることができました。不要不急の外出自粛が求められるなか、本日総会にお集まりいただきました会員の皆様には心から感謝申し上げます。私はこのような会議は余りにも久しぶりですので少しばかり浮きうきした気分になっております。会場にも同じ想いの方が多くおられるように見受けられますが、会の進行方をよろしく願いいたします。

ところでこのコロナ禍ですが、感染の経路は道路と非常に深い関わりを持っているようであります。山形県では感染防止の立場から出来るだけ県外の人が入らない様にとという事で、県境で検温などをしていた様子が報道されました。感染防止のために先ずは道路を封鎖してウイルスの動きを止めるという事が世界で行われ、感染症と道路との関わりが浮き彫りになりました。

また、総会後の「マチュ・ピチュ遺跡とインカ道」の報告でも触れますが、インカ帝国はスペインの侵攻・征服により滅んだという事が通説になっておりますが、実はその直前にヨーロッパから天然痘・麻疹のウイルスが持ち込まれ、感染症の蔓延により人口が激減し、青息吐息の状態だったところを百数十人のスペイン軍に簡単に征服されてしまった、とする説もあります。しかもウイルスはインカ帝国統治のため全国に網の目のように張り巡らされたインカ道が媒介となって帝国の隅々まで蔓延したというのですから、ここでも感染症と人の動きを支える道路との深い関係性が伺えます。因みに、これらの感染症に対してヨーロッパ人はすでに抵抗力を持っており、抵抗力を持たないインカの人々の死亡率は9割近くにもなったのではないとも言われております。世界中に高度な交通網が発達した現代において、人とウイルスの動きを完全に止めることは不可能ですので、せめて効果的なワクチンが一日でも早く開発されることを期待したいものです。

新型コロナウイルスによる感染症がこれから収束に向かうのか、それともまだまだ感染が拡大するのかは余談を許さないところかと思えます。幸いにしてみやぎ街道交流会の諸事業は年度の後半に計画されているものが増えております。感染症が下火になり事業が順調に実施できることが期待できますので、事業計画や予算についてよろしくご審議のほどをお願いいたします。

みやぎ街道交流会

題字：高倉 淳初代会長 揮毫

みやぎ街道交流会  
ニュース第40号

2020.8.25 発行

【今回の目次】

- 令和2年度総会開催報告
  - 開会のあいさつ 会長 白鳥良一 P1
  - 総会議事要旨 P2
- 報告
  - 「おくのほそ道」～登米市内  
行脚の道を巡るツアー～ P3

【編集後記】

- 今年度最初のみやぎ街道交流会ニュース第40号をお届け致します。
- 昨年末からの新型コロナウイルスのため、街道関係イベントが軒並み中止・延期になっていますが、秋には開催出来る様に準備は進めたいと思います。第2波といわれる現在の全国的な蔓延も早く沈静化するよう“アマビエ”に祈るばかりです。（やま）

## 令和2年度定期総会

- 開催会場  
令和2年7月4日(土) 16~17時  
青葉区中央市民センター 第1会議室
- 参加者数  
定期総会 参加者: 22名
- 次第
  1. 開会
  2. 会長あいさつ
  3. 議長指名
  4. 議事
    - 1) 議案第1号  
↳ 令和元年度事業報告(案)
    - 2) 議案第2号  
↳ 令和元年度決算報告(案)
    - 3) 議案第3号  
↳ 令和2年度事業計画(案)
    - 4) 議案第4号  
↳ 令和2年度収支計画(案)
  5. 閉会



議長: 高橋副会長

## 《 総会議事要旨 》

岸 憲之幹事の司会により開会され、最初に白鳥良一会長より挨拶がありました。(挨拶の内容は1頁参照)  
議長に高橋幸三郎副会長が指名され、議長の挨拶後、次のとおり議事が進行されました。

- 1) 議案第1号 令和元年度事業報告(案)  
及び議案第2号 令和元年度決算報告(案)  
を一括審議  
事業報告全般を森田均事務局長代理から、個別事業の実施状況は山屋事務局長から報告がありました。  
続いて、馬場恭子会計から決算、監査結果は大利泰宏監査から報告がありました。  
⇒審議の結果、異議はなく、承認されました。
- 2) 議案第3号 令和2年度事業計画(案)  
及び議案第4号 令和2年度収支計画(案)  
を一括審議  
事業計画(案)は山屋事務局長、収支計画(案)は馬場恭子会計から説明がありました。  
令和2年度重点事業は、次のとおりです。
  - とうほく街道会議の「奥州街道・富谷宿大会」を11月6~7日に富谷市中央公民館で開催予定している。
  - 「笹谷街道探訪マップ」を作成する。
  - 「笹谷街道試掘」を白鳥会長指導の下に実施を予定する。
  - 作成したマップを利用した「笹谷街道探訪会」を川崎町に呼び掛けて実施を予定する。⇒審議の結果、異議がなく、原案の通り決定されました。

以上、議案の審議が終了し、定期総会が閉会しました。

### 【事務局より】 平成2年度定期総会の開催方式について

定期総会は、規約第11条第1項により、正会員で構成することになっています。しかし、例年は、総会後に記念講演会を開催することから、賛助会員・WEB会員にも聴講を頂いておりました。



インカ道での白鳥会長

コロナ禍の中で会場管理者から、3密の環境を避けるため定員の半数以下などの利用が条件とされていることから、今年度の総会は正会員のみで開催することとしました。

また、総会後の記念講演会も実施せず、白鳥会長に昨年7月のプライベートな旅行報告「マチュピチュ遺跡とインカ道」を短時間でお願いしました。

### 会費の納入に関して

- 既に会費納入いただきました会員の皆様には、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。
- なお、当年度の会費は引き続き随時受け付けておりますので、納入がお済みでない方は、下記口座までお振込いただくか、みやぎ街道交流会事務局までお持ちください。

#### 【会費のお振込み先】

仙台銀行 上杉支店 普通口座 2523091  
名義: みやぎ街道交流会 会計 馬場恭子

### 会員登録内容に関して

- 会員種別等登録内容の変更がある方は「会員種別異動届書」を事務局までご提出ください。
- 会員種別異動届書が必要な方は、事務局までお気軽にお問い合わせください。  
※あなたの会員登録内容は、総会資料集巻末資料の「会員名簿」を参照ください。

【事務局】 〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17  
TEL 080-3322-1966 FAX 022-262-0379  
Mail miyagi.kaidou@gmail.com

- 芭蕉の道・案内人協議会(いわいの里ガイドの会、玉造案内人の会、くりはら街道会議、栗原案内人会、みやぎの明治村観光案内人、花泉町先人顕彰会、観光交流ネット千厩、みやぎ街道交流会、とうほく街道会議)では、これまでに一関～岩出山～最上町封人の家及び一関～平泉間の芭蕉の道のツアーや調査研究を実施しています。
- 今回、登米市浅水ふれあいセンター主催のツアーに、登米市区域の調査・研究を目的に協議会メンバーで探訪会へ参加したものです。(案内:協議会メンバーのみやぎの明治村観光案内人酒井哲雄さん)

「おくのほそ道」及び「曾良随行日記」では、どの様に記述されているのか？

『おくのほそ道 (石巻～平泉)』 (『おくのほそ道』角川ソフィア文庫より抜粋)

明ればまた(又)知(し)らぬ道速(まよ)ひ行く。  
 袖の渡(わた)り・尾ぶちの牧・真野(まの)の茅原(かやはら)などよそ目(め)に見(み)て、遙(はる)かなる堤(つた)を行く。  
 心細き長沼(ながぬま)に添(そ)いで、戸伊摩(といま)という所に一宿して、平泉に到(いた)る。  
 その間(かん)二十(に)余里(よ)ほどとおぼゆ。

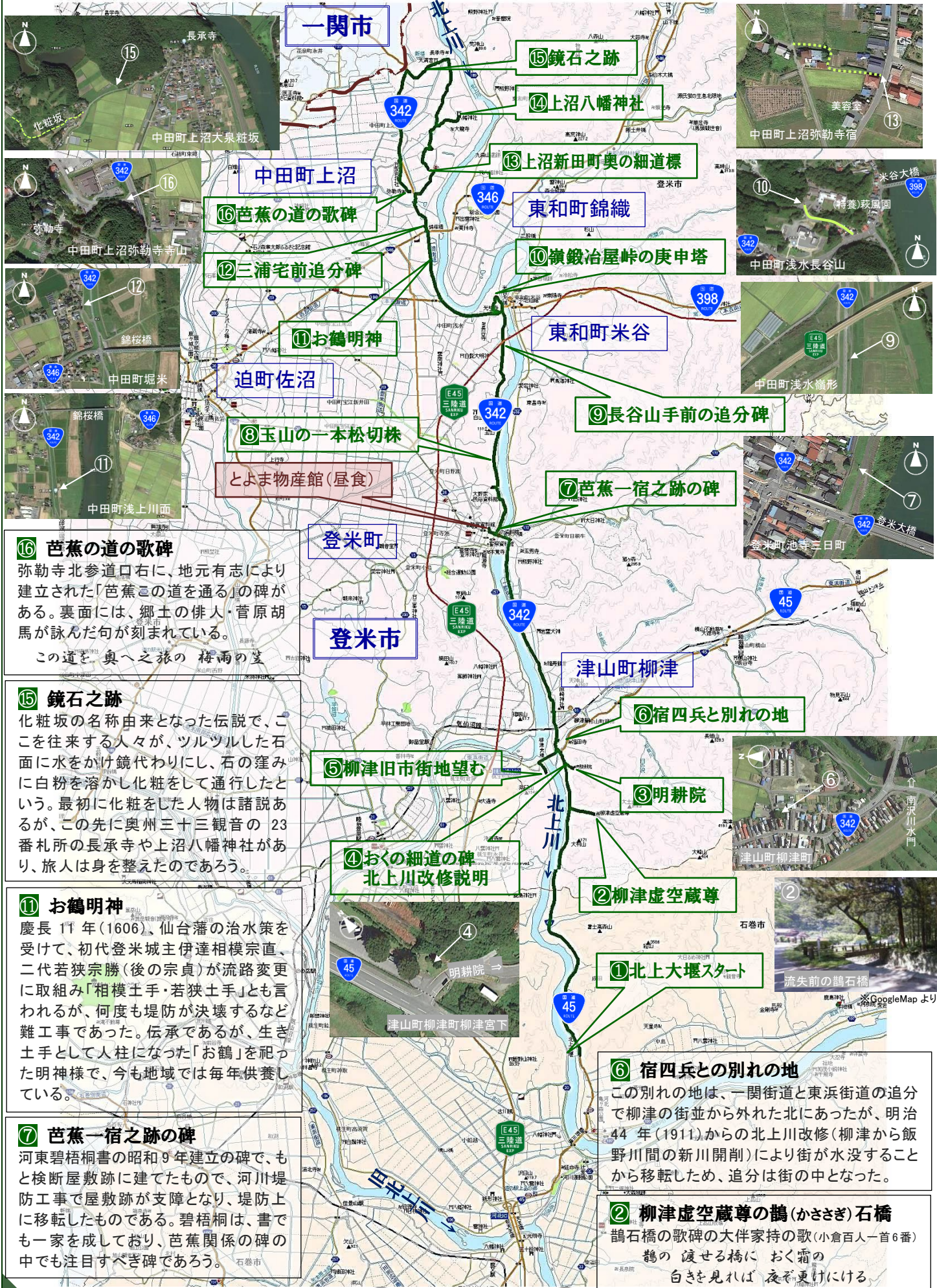
『曾良随行日記 (石巻～一関)』

十一日 天気能(よ)。石ノ巻ヲ立(たつ)。  
 宿四兵へ、今一人、気仙へ行テ矢内津(柳津)迄同道。後、町ハズレニテ離ル。  
 石ノ巻〔二里(里)〕、鹿ノ股(鹿又)〔一里余 渡有〕、飯野川〔三三二遠し。此間、山ノアイ、長キ沼有〕矢内津〔壘〕〔一里半。此間ニ渡〔二ツ有。〕〕戸いま(登米)〔伊達大蔵〕〔検断庄左衛門〕。宿不借〔儀左衛門〕、ヨツテ検断ニ告テ宿ス。  
 十二日 曇。戸今ヲ立。  
 〔三三〕上沼新田町〔長根町モ〕〔雨降出(いず)ル〕、〔三三〕阿久津(涌津)〔松嶋ヨリ此処兩人共ニ歩行。雨強降ル。馬ニ乗。〕〔一里〕加(全)沢、〔三三〕皆山坂也。一ノ関黄昏ニ着。合羽モツル也。宿ス。

写真ダイジェスト (マップは次頁)

※芭蕉の道を辿るとともに、沿線の歴史資源を巡りました。





**16 芭蕉の道の歌碑**  
 弥勒寺北参道口右に、地元有志により建立された「芭蕉この道を通る」の碑がある。裏面には、郷土の俳人・菅原胡馬が詠んだ句が刻まれている。  
 この道を 奥へ之旅の 梅雨の 笠

**15 鏡石之跡**  
 化粧坂の名称由来となった伝説で、ここを往来する人々が、ツルツルした石面に水をかけ鏡代わりにし、石の窪みに白粉を溶かし化粧をして通行したという。最初に化粧をした人物は諸説あるが、この先に奥州三十三観音の23番札所の長承寺や上沼八幡神社があり、旅人は身を整えたのであろう。

**11 お鶴明神**  
 慶長11年(1606)、仙台藩の治水策を受けて、初代登米城主伊達相模宗直、二代若狭宗勝(後の宗貞)が流路変更に取り組み「相模土手・若狭土手」とも言われるが、何度も堤防が決壊するなど難工事であった。伝承であるが、生き土手として人柱になった「お鶴」を祀った明神様で、今も地域では毎年供養している。

**7 芭蕉一宿之跡の碑**  
 河東碧梧桐書の昭和9年建立の碑で、もと検断屋敷跡に建てたもので、河川堤防工事で屋敷跡が支障となり、堤防上に移転したものである。碧梧桐は、書でも一家を成しており、芭蕉関係の碑の中でも注目すべき碑であろう。

**6 宿四兵との別れの地**  
 この別れの地は、一関街道と東浜街道の追分で柳津の街並から外れた北にあったが、明治44年(1911)からの北上川改修(柳津から飯野川間の新川開削)により街が水没することから移転したため、追分は街の中となった。

**2 柳津虚空蔵尊の鶺鴒(かささぎ)石橋**  
 鶺鴒石橋の歌碑の大伴家持の歌(小倉百人一首6番)  
 鶺鴒の 渡せる橋に おく霜の  
 白きを見れば 夜ぞ更けにける